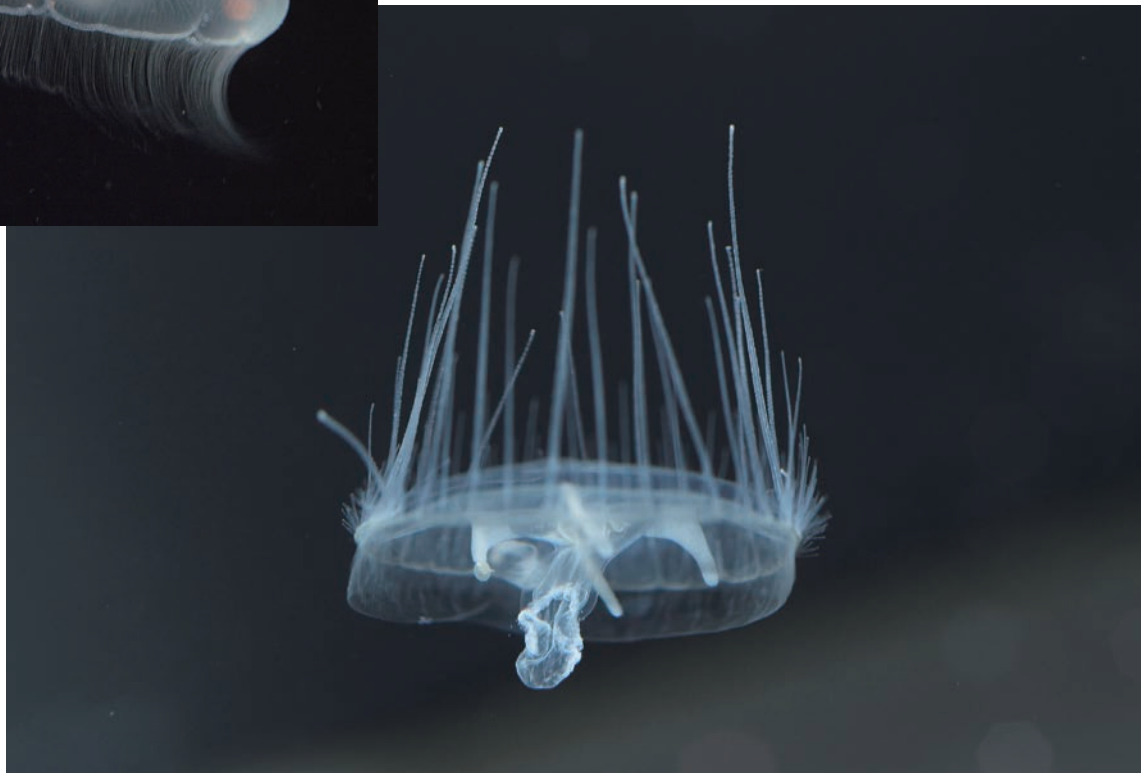


東海大学博物館だより

海のはくぶつかん



水槽を漂うミズクラゲとマミズクラゲ

Vol.49 No.4
2019.10 秋号

C O N T E N T S

- 話 題 ・わくわく釣りたいけん教室2019 ————— 手塚覚夫 2
話 題 ・ウナギギンポ ————— 犬木義文 4
I N F O R M A T I O N ————— 4

わくわく釣りたいけん教室2019

手塚 覚夫

Sadao TEZUKA

今年も酷暑と言われるほど暑い夏が終わり、もうすぐ快適な秋がやってきます。秋といえばアウトドア！そこで当館では、恒例となった『わくわく釣りたいけん教室』を10月20日に開催予定です。

さて、みなさんは釣りに対してどんなイメージを持っているでしょうか？釣りが好きな方、嫌いな方、分からない方と様々だと思います。「海のはくぶつかん」で働く私たちは、海の生き物を好きになってほしい、興味を持ってほしいと思い、様々なイベントを行っています。今年で3年目をむかえるこの教室もそのひとつで、関係団体や地元企業のご協力を得て開催します。海で安全に釣りを楽しむことができるイベントで、フィールドでの活動方法や注意点を学び、実際に体験することが目的で、初心者の方々を対象としています。釣りを始めたいと思っているけれど、何から始めればいいのか分からない、不安があるという方に、細かな事前指導やスタッフによる実演、そして実釣サポートもありますので、安心して釣りをすることができます。



写真1 楽しい釣り体験

まず釣りを楽しむためには安全が最も大切です。そのために、ライフジャケットを必ず着用します。また釣りをしている最中でも、大型船が横切った後の大波や周りの人の釣り竿にも注意が必要です。みんなで楽しみ良い

釣り体験をするのに安全は最も大切なことです。海の状態にはいつも気を配りましょう。

この教室で行う釣り方は「投げ釣り」です。道糸の先にテンピンと呼ばれる金具を結び付け、その先に2本針の仕掛けを取り付けます。エサはゴカイの仲間を使用します。これまでの教室では本命であるシロギス、カワハギ、さらにマダコ、マダイなど、多くの種類を見ることができました。



写真2 釣り上げたカワハギ

魚が釣れるに越したことはありませんが、様々な条件が重なるため、いつでも魚を釣り上げることができるとは限りません。季節や潮の状況などを考え、どうすれば魚を釣り上げられるかと、自分なりに考えることも釣りの楽しみの一つです。釣りは海に親しみ、生き物について学び考える良い機会になります。

釣りを始めてみたいとお考えの方は、是非この機会にご参加いただければと思います。また、釣り終了後には海岸のクリーニングを行う予定です。いつまでも綺麗な海で活動ができるようにご協力下さい。

さて、実際に何が釣れるかは当日のお楽しみにするとして、ここからは事前学習として、これまでに開催した教室で実際によく釣れた魚、特に今回は釣り用語で外道（狙った魚以外の魚）と呼ばれる魚たちを少し紹介したいと思います。

【キュウセン】



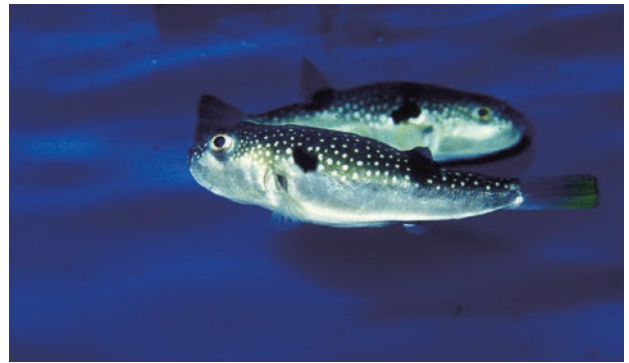
釣りをしない方には馴染みのない魚かもしれませんが、釣り人には有名な魚です。ベラの仲間で、当館周辺の海では普通に見られます。写真の個体はメスで、性転換をしてオスになると全身が青く変化して「アオベラ」と呼ばれます。関東地方ではあまり口にされませんが、関西地方では有名な食用魚で、塩焼きや煮つけ、天ぷら、刺身などにして食されます。

【ヒイラギ】



キラキラと銀色に光る体がきれいな小魚です。また、発光細菌によって腹部が光る発光魚として知られています。この名前は、植物の柎ひいらぎに似て堅いトゲが手に刺さること(古語でヒイラクはヒリヒリ痛むという意味)が由来だと言われ、静岡周辺ではジンタやジンダベラとも呼ばれます。粘液が大変多く、あまり食用にはされませんが、大型のものは煮つけや塩焼きで美味です。

【クサフグ】



外道の王様!?!とも言える魚で、釣り人からは大変嫌われている魚です。なぜなら、その強じんな歯で、釣り糸、ときには釣り針までも切ってしまうからです。特に、釣り教室で行う投げ釣りでは、その場面が多く見られるかもしれません。釣り教室では、本種以外にもコモンフグやショウサイフグといったフグの仲間が釣れることがありますが、同じような理由で釣り人には嫌われます。

【クロサギ】



名前だけ聞くと鳥をイメージしてしまうかもしれませんが、スズキ目クロサギ科の立派な魚です。海では砂の中にある小さな生き物を食べますが、その際に口を下方に長く伸ばします。その様子からこのような名前が付けられたようです。当館周辺の海では、夏から秋にかけてよく釣れますが、誰もが知っている一般的な魚ではなく、釣り人からはやはり外道として扱われています。

ウナギギンポ

犬木 義文
Yoshifumi INUGI

「ウミヘビ?」「いやいやリュウグウノツカイの赤ちゃんだよ」水槽の近くからそんな声が聞こえてきました。はてさてその魚の正体は!?正解は、ウナギギンポ *Xiphasia setifer* と呼ばれる魚です (写真1)。スズキ



写真1 ウナギギンポ



写真2 イソギンポ

目イソギンポ科に属し、体はウナギのように非常に細長く、同科のイソギンポ *Parablennius yatabei* (写真2) と比べても同じ仲間とは思えないほどです。

本種は、西太平洋の熱帯から温帯域の内湾や浅海の砂泥底に生息する魚で、成長すると50cmほどになります。駿河湾でもたまたま混獲され、今回の個体は今年の6月に当館にやってきました。体色は、薄茶色と水色のしま模様がとてもきれいで、形も面白いという事もあってマイナーながら人気のある魚です。

しかし、飼育する魚としては、なかなかの曲者です。新しくやってきた魚は、ケガや病気の予防と治療のため、しばらく葉の入った水槽に入れるのですが、ウナギギンポを治療用の水槽に入れようとしたところ、体をくねらせて前にも後ろにも器用に進むため、水槽に入れるのも一苦労でした。また、水槽に入れても、少しでもすきまがあると逃げ出してしまうため、しっかりとすきまなく蓋をする必要がありました。治療も終わり水槽の環境にも慣れてきたところに、餌として冷凍のイサザアミを与えるとパクパクとおいしそうに食べていました。脱走にさえ気を付けてあげれば、ある程度の長期飼育もできることがわかりました。水槽の中で、その泳ぎや表情を見ると、意外とかわいいやつです。

現在は、当館の「きらきら☆ラグーン」のコーナーにて展示中です。ぜひご来館いただき、この奇妙な魚を観察してみてください。

(生き物の状態によっては展示を中止する場合があります)



表紙説明: ミズクラゲ *Aurelia aurita* は、日本各地の海で最も見られるクラゲで、港内などで大量発生して度々話題になります。一方、同じクラゲでもマミズクラゲ *Craspedacusta sowerbyi* は、淡水にすむ珍しいクラゲです。神出鬼没のクラゲで、夏の終わりから秋のはじめにかけて、ため池などに突然出現します。長く飼育することは大変難しく、当館では8月下旬に県内の池で採集し、短期間ではありましたが飼育展示に挑戦しました。

『海のはくぶつかん』紙媒体による発行終了のお知らせ

1971年の発行開始以来、皆様にご支援を頂戴してまいりました『海のはくぶつかん』は、今号 Vol.49 No.4をもって紙媒体による発行を終了させていただきます。今後は、デジタル媒体による情報発信を検討しており、2020年度以降に実施する予定です。

創刊から永らくの間、ご支援をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。今後とも変わらぬご支援のほど、何卒よろしくお願い致します。

『海のはくぶつかん』編集委員会

お問い合わせ : TEL.054-334-2385

ホームページ <https://www.muse-tokai.jp/>